

### 3) 山の下湾に設置した張網による生物調査

桑村邦彦・太田滋規

〔目的〕 山の下湾の温水魚産卵場周辺での、生物の生息状況を把握する。

〔方法〕 大津市衣川地先の山の下湾内の御呂戸川河口（以下河口）、ヨシ前面（以下ヨシ前）、マコモ前面（以下マコモ前）の計3ヶ所に張網（垣網目合25節、袋網目合4mm角）を設置した。採集は、5月15日～11月24日に河口29回、ヨシ前26回、マコモ前18回行ない、漁獲物の種類ごとに個体数と重量を測定し、捕獲状況で分類した。

〔結果〕 期間中に捕獲された魚分類は、河口9科24属27種、ヨシ前9科20属21種、マコモ前6科14属14種、全体で9科25属28種であった。総漁獲量は河口が最も多く、個体数29,839尾、重量113.0kg、続いてヨシ前4,585尾、33.1kg、マコモ前2,384尾、32.4kgとなり全体で36,808尾、178.5kgであった。種類ごとの尾数は、テナガエビが最も多く全体の68%を占め、次に多いブルーギルの24%と合わせて92%を占める。しかし、重量ではテナガエビは9%しかならず、最も多いのはブルーギルの29%、続いてニゴロブナ17%、オオクチバス15%となる。

このようにブルーギルが数、量ともに優占しており、食性が広く、環境に適応力のあるこの外来種が在来種の餌や生活空間を脅かしていると推察される。また魚食性魚であるナマズ、ウナギ、カムルチー、オオクチバスの全体の尾数に対する割合は1%であるが、重量では28%となり、この捕食魚と被捕食魚の割合が適正かどうかは今後の検討を要する。

#### 1. 期間を通してよく捕獲される種

アユ、オイカワ、オオクチバス、ブルーギル、スジビ、テナガエビ、ザリガニ

#### 2. 期間を通して少しづつ捕獲される種

スゴモロコ、ビワヒガイ、カマツカ、コイ、ギンブナ、ナマズ、ウナギ、カムルチー、ヨシノボリ、チチブ

#### 3. 希にしか捕獲されない種

ホンモロコ、ニゴイ、カワムツ、ハス、タナゴ類

#### 4. 産卵に接岸する期間だけ親魚が捕獲される種（期間：月/旬～月/旬）

ゼゼラ（5/中～6/中）、ワタカ（7/中～8/下）、ニゴロブナ（5/中～8/下）、ゲンゴロウブナ（5/中～6/下）

#### 5. 稚魚が成長に伴い捕獲される種（期間：月/旬～月/旬）

モツゴ（6/下～8/中）、フナ類（6/中～11/上）、オオクチバス（6/下～11/下）、ブルーギル（8/中～11/下）

#### 6. 水位や水温の低下に伴い捕獲される種

ブルーギル稚魚、テナガエビ、ザリガニ

